

明治から令和へ  
職人技のバトンをつなぐ  
古民家再生。



糸山 葵さん(建築ディレクター・一級建築士)。「水廻りの位置を大きく変えずにコストを抑えつつ、動線を整理。古き良き構造を活かしながら現代の快適性を確保しました。お家の持つ歴史ある雰囲気にぴったりと合う空間になってよかったです」



LDK

和室や洋室として区切られていた段差を解消し、一つの大きなLDKとしてフラットにつなげた。床は厚さ21mmの温かみがあるポルター材。玄関の壁には素朴な質感の西洋漆喰を、リビングには滑らかな質感の日本漆喰を使用



Exterior

白(漆喰)と黒(ガルバリウム)のコントラストが美しい外観。和風建築ならではの鎮座と薪ストーブの煙突という和洋のアクセントをあしらい、細部までこだわった



BEFORE

左、両親用の洗面台はコンパクトに造作/右、玄関ホールの照明と時計の組み合わせはなつかしいレトロな雰囲気



Kitchen

キッチンの背後にある収納棚は大工職人による造作。二方向から使えるレンジカウンターは伝統的な和風の意匠を用いたハウズランド社によるオリジナルデザインで、家具職人によるもの。古民家の雰囲気に合わせた造作は同社が得意とするところ

Q リノベーションしてよかったことは？  
梁や柱、建具など古いけれど良いものを残しつつ、断熱性は高めて暮らしやすくしました。曾祖父が建てた家を守りながら親も親戚もよろこんでいます



こだわり造作と便利な収納で暮らしやすさを追求。



キッチンがトラス。周囲を造作で囲い、古民家の雰囲気に馴染ませた



BEFORE

洗面台は女性3人が並んで使えるように造作。十分な収納スペースと左右に設けたコンセントが使いやすいポイント



このリノベを手がけた会社

株式会社ハウズランド社  
福岡県筑紫野市大字吉木344-1  
TEL 092-922-8771  
https://www.h-land.jp

●詳しい情報はP000に掲載

RENOVATION DATA  
設計：ハウズランド社  
施工：ハウズランド社  
竣工：2023年7月  
専有面積：223.14㎡  
家族構成：6人(ご両親+ご夫婦+お子様)  
設計期間：3か月  
施工期間：7か月

主人は薪ストーブの前と、それでお気に入りのスペースで過ごすのが好きです。そんな空間を、新しい空間の仕切りとして再利用してもらえたらいいな、昔のものも違和感なく馴染んでいくのがうれしくて。受け継いできたものを残せてよかったですと語るMさん。「ハウズランド社」に託した、家族の思いと建物の記憶を未来へとつなぐ一大プロジェクトは成功裏に終わったといえそうです。

「和室で使っていたガラスの建具を、新しい空間の仕切りとして再利用してもらえたらいいな、昔のものも違和感なく馴染んでいくのがうれしくて。受け継いできたものを残せてよかったですと語るMさん。」「ハウズランド社」に託した、家族の思いと建物の記憶を未来へとつなぐ一大プロジェクトは成功裏に終わったといえそうです。

元の土壁はそのまま活かしつつ、屋根と床下に断熱材を入れ、開口部のサッシを交換することで断熱性能は大幅にアップ。以前は局所的にしか暖まらず、部屋ごとに暖房器具が必要でしたが、今はエアコンと薪ストーブだけで、家中どこに行っても寒くない、その変化に驚きを隠せない様子だ。住み心地とともに、家族の過ごし方も変化した。「以前は同じ部屋にいたのにパラパラ女気がしましたが、今は広い空間の中で、私がキッチン、子どもたちはソファ、

玄関を入ると、かつての土間を彷彿とさせる洗い出しの床が広がり、冬の暖かさとゆしめもたらず薪ストーブが鎮座。区切られていた和室はつなげて無垢フローリングを張り、広々としたLDKへと変更した。リノベーションのハイライトは、天井裏に隠されていた見事な梁の現しだ。解体中に現れたその姿に、施主のみならず職人たちも沸き立ったという。きれいに磨きあげられた後は黒檀色に塗装され、家族の集う空間で凛とした存在感を示している。

歴史と現代が融合する  
梁や柱は隠されていた宝物